

[概要]

2023 年 9 月 5 日（火）14:45~16:00 に第 2 学年を対象とした学術研究講演会が開催されました。講師の東北大学大学院生命科学研究科 酒井聡樹 准教授から、「これから研究発表をする仙台一高生のために」という演題でお話をいただきました。

[講演内容]

- ・聴衆は発表者のためではなく自分のために理解しようとするのだ。だから、聴衆に研究を理解してもらうために発表するという意識が大切である。
- ・情報を図式化することによって聴衆が抱く印象が大きく変わり、聴衆の理解が深まる。
- ・スライドには 1 枚につき 1 つ、ポスターには 1 ブロックにつき 1 つ重要な情報を配置し、必ず見出しをつける。
- ・フォントや背景の配色はコントラストに注意しながら行い、スライドでは会場の最後方、ポスターでは 2~3 m 離れたところからでも見やすいフォントの設定にすべきである。情報の重要性に合わせて文字の色や太さを変える。
- ・ポスターの配置について、論理の順番を気にすることなく、研究の中で最も重要な序論と結論を上部に配置することで、後方の人がポスター下部が見えなくても研究内容を理解できるようになる。
- ・聴衆は拾い読みしたいと思うもの。情報を少量ずつ伝えていくことで聴衆のより深い理解につながる。



[質疑応答]

Q1 1 枚のスライドやポスターに対するコンテンツ（文章量・図表）の充填率はどれくらいが適切か？

—A1 80%ほどがよい。1 枚に入れる情報量は少なくする。

Q2 ダウンロードすればだれでも使うことが出来るフリーフォントを利用する際の注意点は？

—A2 スライドやポスターに遊び心は必要ない。備え付けのもので十分。

Q3 歴史の説明が必要になる場合には、歴史の時間軸を伝える上手な方法は？

—A3 概略を伝える際は全体図を見せてから、細部を説明していくとよい。必要に応じて詳細を説明していく。

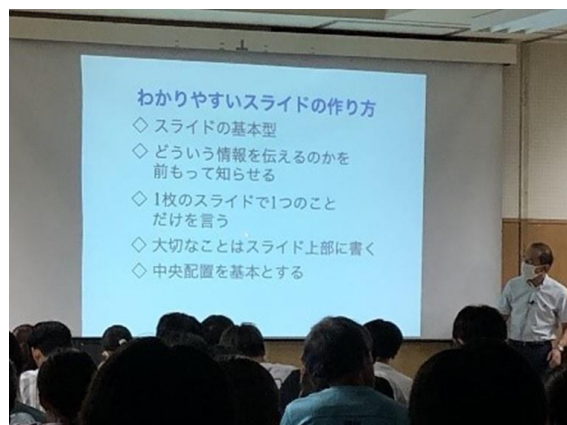
Q4 発表で化学式を用いることが多い。聴衆が理解しやすくするにはどうすればよいか？

—A4 化学式でなく物質名を用いる。説明時にわかりやすいのであれば、化学式も使用するべき。



[講演を聞いての感想（アンケートより）]

研究を自分自身がしっかりと把握すること、聴衆が見て、わかりやすいスライド、ポスターを作ることがよい発表には必要だと感じた。酒井先生のお話はどの情報も詳しく、具体的で大いに研究発表に役立つと感じた。私たちが納得、理解しやすい形で説明していただけだったので、頭に入ってきやすく、かつ受け入れやすかった。直前に迫っているポスター作成、発表において、自信をもってポスターに向き合えるような知識が身についた。「文章はNG」、「まとめは上部に」といったこれまでやってこなかった工夫があったのですぐにでも試したい。



聴衆にわかりやすい発表を心がけるということは頭の中で分かっているけど、実際に行ってみると自分の視点中心になりがちである。一年生の時の発表では、ポスターのグラフの目盛りがわかりにくいと指摘された。学術研究Ⅱの発表では、今回知った発表技術の中でも、何を言いたいかを明示することと、全体像を示してから細部を説明することが自分たちの班に足りないことだと思うので、意識していきたい。



自分の経験と照らし合わせながら、どのような発表が理解しやすいのか実感でき、聴衆は発表者のためではなく、自分のために理解するというところに、なるほどと納得した。また、発表するときだけでなく、だれかと会話するときにおいても、話の要点をはっきりさせることが重要だと思った。見出し、要点、大切な部分を色を変えて目立たせるというのは普段の授業のノートをとる際にも役立つと感じた。今回学んだ理解しやすいスライドの作り方を活かして、聴衆のことを考えたスライドを作っていきたい。

～編集後記～

今回改めてわかりやすいスライド、ポスター作成の仕方について聞き、それぞれ新しく発見があったのではないかと思います。聴衆者目線での意見や発表する際の意識についても説明していただきました。次のポスター発表では、学んだことを活かしたポスターが見られることを期待しています。